

リスト：愛の夢 第3番

「愛の夢」は第1番から第3番までの夜想曲からできていますが、「愛の夢」といえばこの第3番というくらいに、有名な作品です。もとはリストが作曲した歌をピアノのために編曲したもので、夢のようなあまいメロディがとても心にのこります。

モーツァルト：《6つのウィーン・ソナチネ》より 第5番 第3楽章 ポロネーズ

《5つのディヴェルティメント》という作品を、ピアノ用に編曲したものです。ポロネーズは「ポーランドふう」という意味で、軽やかに流れるようなリズムと素朴なメロディが、とても楽しい曲です。

ラヴェル：古風なメヌエット より

ラヴェルがまだ20歳のころ、パリ音楽院で学んでいたときに書いたピアノ曲です。メヌエットというのは、古いフランスの3拍子の踊りで、ラヴェルはそのふんいきをうまく取りいれて、色あざやかな作品にしあげました。

サティ：3つのジムノペディ 第1番

《3つのジムノペディ》は、すこし風変わりな作曲家エリック・サティのピアノ曲です。ジムノペディというのは、古代ギリシアのお祭りのことで、戦い

で死んだ^し勇士^{ゆうし}を悲^{かな}しむため^{おこ}に行^{だい}なわれ^{ぼん}ました。第^{だい}1番^{ばん}は、ゆ^{びょうし}っくりとした3拍子^{びょうし}のリズムですが、どこか^{かな}悲^{かな}し^きそう^もな^{かん}気^{かん}持^{かん}ち^{かん}にも感^{かん}じ^{かん}られ^{かん}ます。

プーランク：^{そつきょうきよく}15の即興曲^{だい}より第15番^{ぼん} 《エディット・ピアフ^たを讚^たえて》

プーランクが30年^{ねん}ちかくにわたって書^かいた即興曲^{そつきょうきよく}をまとめた《15の即興曲^{そつきょうきよく}》の、一番^{いちばん}さいごの曲^{きよく}には、「エディット・ピアフ^たを讚^たえて」という題^{だい}がつけられています。ピアフはフランスで活^{かつやく}躍^{ゆうめい}した、有名^{じよせい}な女性^{かしゆ}歌手^{しゆ}です。この曲^{きよく}も、ピアフの歌^{うた}のように切^{せつ}なくて美^{うつく}しいメロディ^{うつく}になっています。

プーランク：^{おんがくものがたり}音楽物語^{おんがくものがたり} 《ぞうのババール》

《ぞうのババール》という絵^えほんを書^かいたフランスの作家^{さっか}ジャン・ド・ブリュノフと、プーランクは友^{とも}だちでした。あるとき、プーランクは親^{しん}せきの子^こどもたちに、《ババール》の絵^えほんに音^{おんがく}楽^{がく}をつけてほしいとせがまれます。プーランクが子^こどもたちとの約^{やく}束^{そく}をはたしたのは、1945年^{ねん}のことでした。そして、すばらしい絵^えほんのための、すてきな音^{おんがく}楽^{がく}が生^うまれたのです。